

1-2. 交通影響に関するこれまでの検討結果

御堂筋の緩速車線を廃止し、ゆとり空間として活用した場合、御堂筋およびその周辺道路への影響が懸念されるため、交通マイクロシミュレーションを実施したところ、下記の①～③の対策を講じることにより、御堂筋の緩速車線をゆとり空間に活用しても（緩速車線を廃止しても）、御堂筋及びその周辺道路に対して著しい影響を及ぼすものとはなりません^{※1}。

御堂筋自体は車線の減少や路上駐車により、現況の平均通過時間^{※2}約13分に対し、約44分になると想定されていましたが、以下のような対策を講じることにより、交通マイクロシミュレーションにおいては、ほぼ現状と変わらない約16分になると想定されています。

- ①荷さばき車両やタクシー、バスなどの停車が可能な駐車帯を本線の外側に設置
- ②主要交差点^{※3}に右左折専用レーンを設置
- ③荷さばき車両などで駐車帯が空いていない場合に、停車できない一般車両を、周辺駐車場に誘導

※1) 現状で緩速車線に停車している車両のすべてを本線の東西両最外車線に停車させて、
実質中央の2車線しか機能しないが右左折専用レーンを設置したケース

※2) ピーク時間帯で梅新南～難波交差点間で算出

※3) 本町3、新橋、難波交差点

